

# 音楽と出逢う優雅なひととき

## 努力が奏でるヴァイオリンの音色

10月28日(土)千頭駅前前のcafeうえまる、山本屋旅館で義手のヴァイオリニスト伊藤真波さんによるコンサートが行われました。

伊藤さんは、20歳の時に交通事故で右腕を失くしました。以来、差別の目やご自身との葛藤を乗り越え、日本で初めての義手の看護師となり、リハビリで始めた水泳では、北京、ロンドンと二大会連続でパラリンピックにも出場されています。七歳で出会ったヴァイオリンも、もう一度弾けるようになりたいと義手で演奏に挑戦することを決意。「はじめは「キラキラ星」を一曲弾くことを目標に、母が好きな曲やさだまさしさんの「精霊流し」を弾けるようになりたいという思いから練習を重ね、次第に上達し、目標を達成すると喜びと自信につながりました」と話します。

この日、「故郷」なごり雪など5曲を披露した伊藤さん。ヴァイオリン専用の義手を身につけ、陳昌鉉氏遺作のヴァイオリン「鳳仙花」による素晴らしい演奏で多くの来場者を魅了しました。



### 伊藤 真波 さん

#### ★奏者紹介★

- 兵庫県在住(静岡市出身)
- 3児の母として子育てをしながら、全国各地で講演活動行っている。
- ヴァイオリン演奏用の義手は洋服の上から着脱を行う。肩甲骨を動かすことで弓の操作を行う。楽器と仕事では別の義手を使い分ける。



生前の陳昌鉉さん  
撮影：北村隆夫さん



◀(左)1929年韓国生まれの(故)陳昌鉉氏。  
(右)陳氏が手がけたヴァイオリン「鳳仙花」。  
ヴァイオリン制作者。明治大学英文科卒業後、独学でヴァイオリン製作を習得。84年、アメリカヴァイオリン製作者協会より、無鑑査製作者の特別認定とマスターメーカーの称号を授与され、「東洋のストラディバリ」とも称される。

## 東京都交響楽団によるコンサートが開催されました

### 弦楽四重奏の音色に200人が魅了



10月22日(日)川根本町文化会館で、東京都交響楽団のメンバーによる、弦楽四重奏コンサートが行われました。ヴァイオリン(大和加奈さん、伊東翔太さん)・ヴィオラ(富永悠紀子さん)・チェロ(柳瀬順平さん)の4名により行われ、会場はほぼ満席となりました。

演目は、NHK大河ドラマから「どうする家康」のメインテーマや、映画「千と千尋の神隠し」より「いのちの名前」など大人も子どもも親しみのある曲から、「W・A・モーツァルト」の第17番変ロ長調「狩」といったクラシックの名曲まで全6曲。アンコールでは葉加瀬太郎作曲の情熱大陸が披露されました。